

トマスの伝道 → 東方のアッシリア方面(イラク)、
インド、中国



ISRAEL

②イラク

JERUSALEM

①エルサレム
の神学校

INDIA



KERALA

③AD52年 南インド
のケララ

トマスの伝道 → 東方のアッシリア方面(イラク)、
インド、中国



ISRAEL

②イラク

JERUSALEM

①エルサレム
の神学校

INDIA



KERALA

③AD52年 南インド
のケララ

トマスの伝道 → 東方のアッシリア方面(イラク)、
インド、中国



ISRAEL

②イラク

JERUSALEM

①エルサレム
の神学校

INDIA




KERALA

③AD52年 南インド
のケララ

トマスが宣教前に経験したこと

① 誇りに勝利した

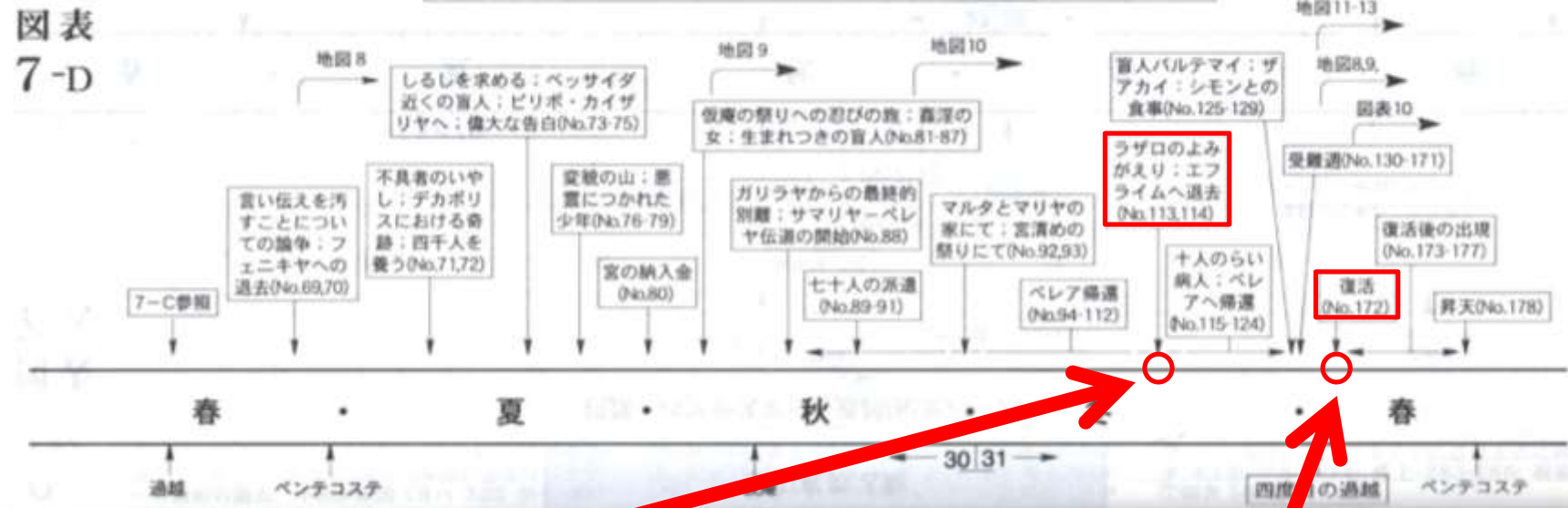
② 自分の罪深さを自覚した



立ち上がる
トマス

トマスの変化

退去そしてベレア伝道：過越から過越(紀元30-31年)



「わたしたちも行って、先生と一緒に死のうではないか」。ヨハネ11：16

「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」。

ラザロのよみがえり

ヨハネ11章

ヨハネ11:1 「さて、ひとりの病人がいた。ラザロといい、マリヤとその姉妹マルタの村**ベタニヤ**の人であった」。

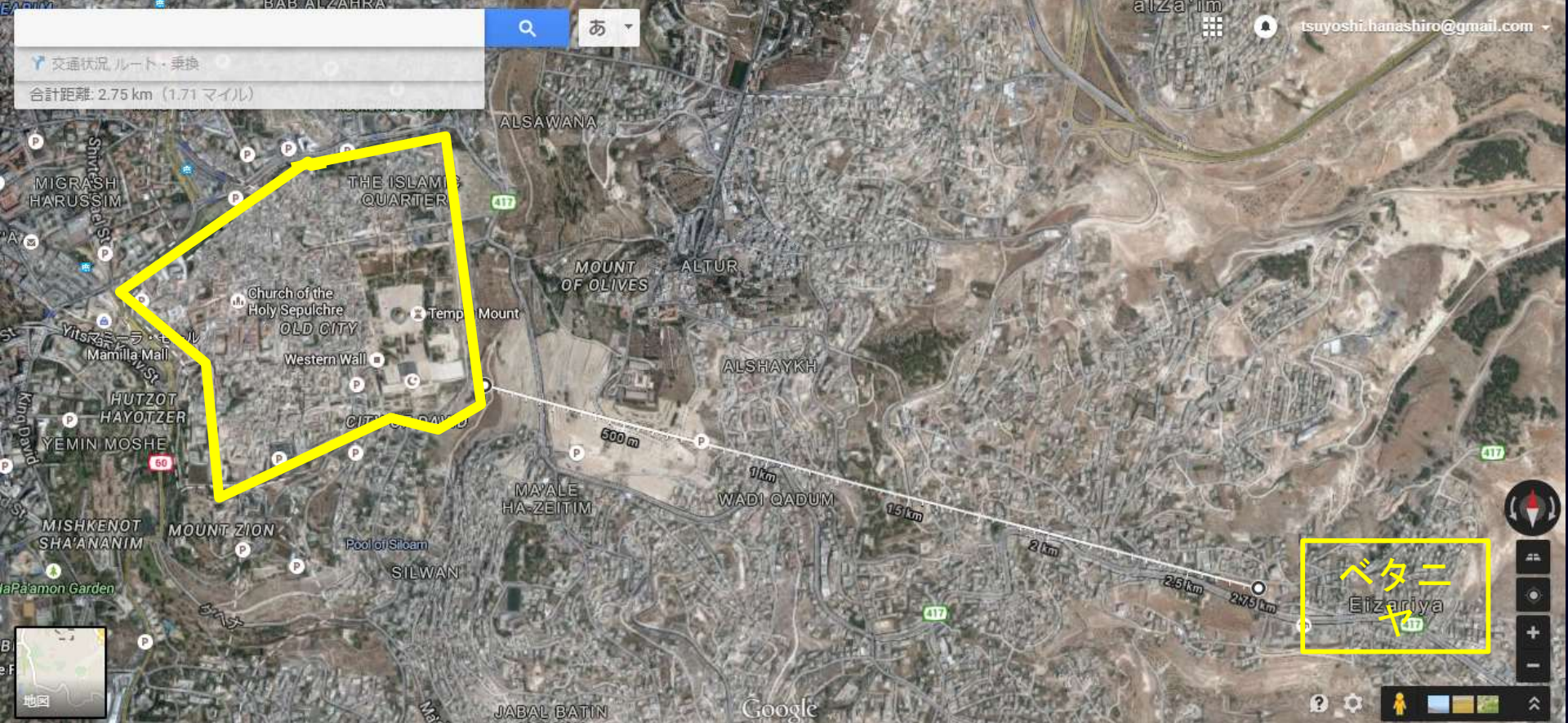
al-Eizariya X 🔍 あ

Eizariya

写真・付近を検索

ベタニヤ:現在の
アル=エルザリヤ
エルサレム近郊の村





ヨハネ11:18 ベタニヤはエルサレムに近く、二十五丁ばかり離れたところにあった。
(ギリシャ語: 「25丁」 = 15 スタディオン = 約2800m [1 スタディオン = 185m])

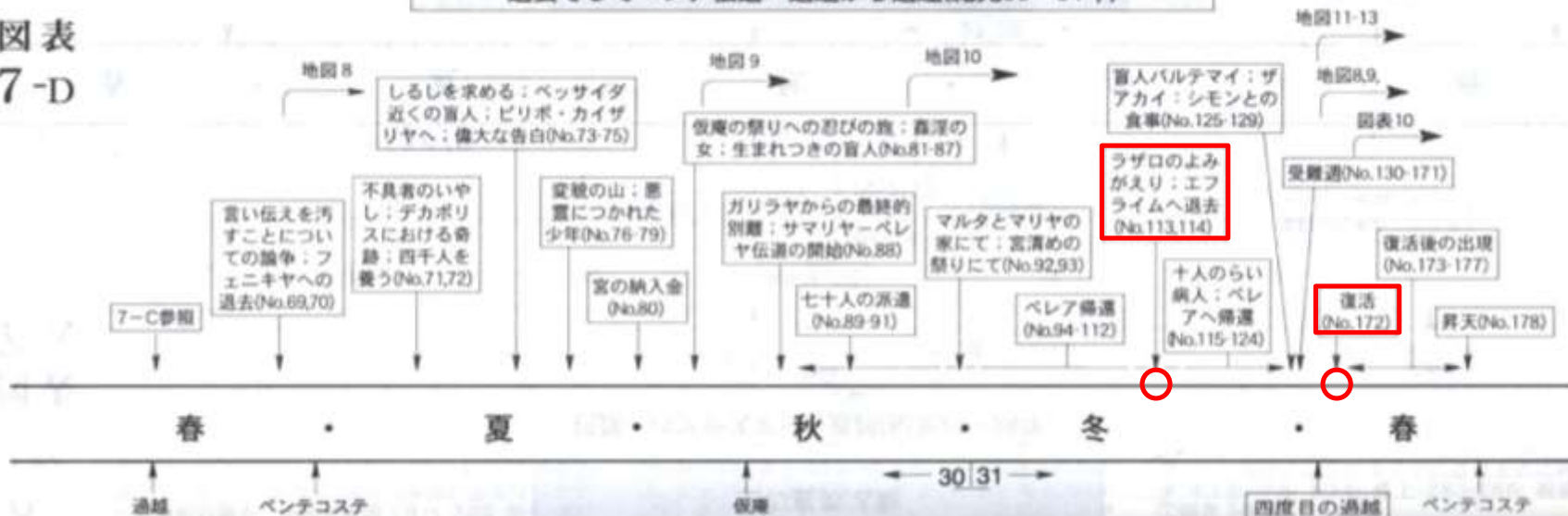
ラザロのよみがえりはキリストの神性を示した

希中343

・・・憐れみ深い主は、ご自分が救い主であって、生命と不死を明らかにすることのできるただ1人のお方であるという証拠をもう1度彼らに与えようと意図された。・・・これが、イエスがベタニヤに行くのを遅くされた理由であった。この最高の奇跡であるラザロのよみがえりは、キリストの働きと、神性についてのキリストの主張に、神の印をおすものであった。

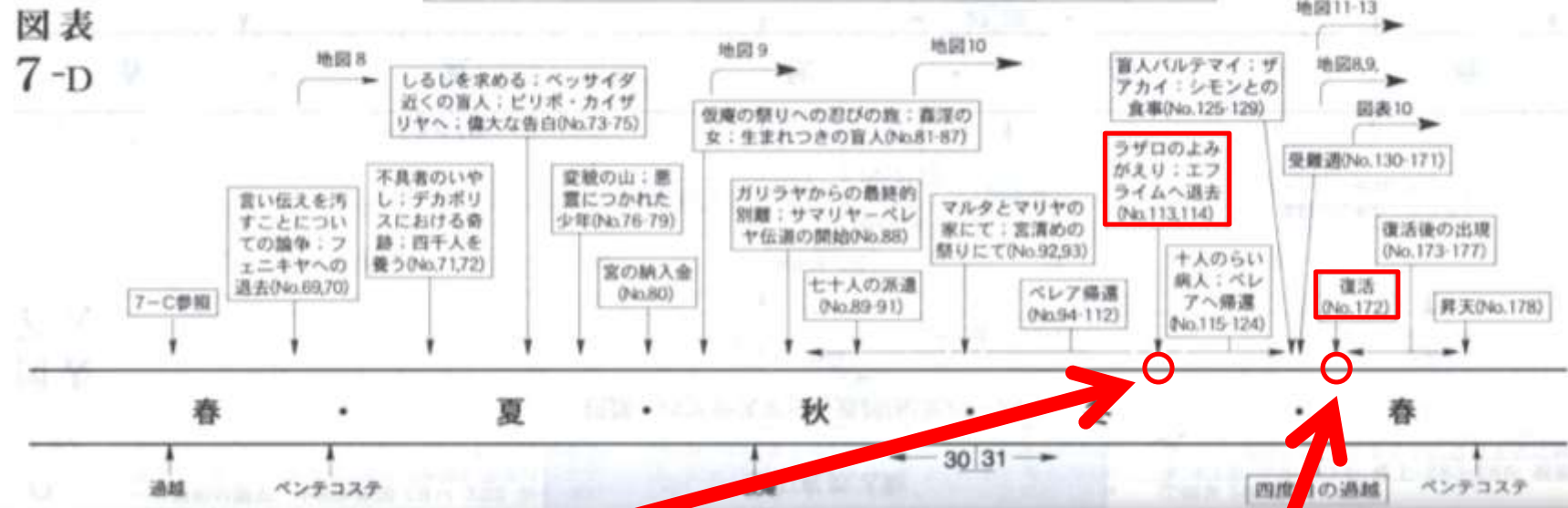
退去そしてベレア伝道：過越から過越(紀元30-31年)

図表
7-D



トマスの変化

退去そしてベレア伝道：過越から過越(紀元30-31年)



「わたしたちも行って、先生と一緒に死のうではないか」。ヨハネ11：16

「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」。

トマスの弱さ

ヨハネ20章1－29節

- ①弟子たちといっしょにいなかった。(24節)
- ②「決して信じてない」と言った。(25節)

ところで…

マリヤは日曜日の朝、イエスに触れてはならなかった(17節)
弟子たちはその日の夕方に、イエスに触れることができた
(20節、ルカ24: :39)

その日のうちにイエスは天父のもとに上り、いそいで地球に
帰ってきた。



イエスは1月16日の日曜日の朝、一度天に帰られた

生き残る人々271

マリヤはうれしい知らせをもって、大よろこびで弟子たちのもとへ急いだ。イエスは神が犠牲を受け入れたもうたことを神の口からきき、天と地の一切の権力を受けるために、すぐに天父のもとへおのぼりになった。

イエスは1月16日の日曜日の朝、一度天に帰られた

生き残る人々271、272

天使たちは、雲のようにむらがって神のみ子をかこみ、栄光の王が入りたもうように永遠の門に開けと命じた。イエスは神の御前にあって、光り輝く天使の群れと一しょにおられる間も、地上の弟子たちのことを忘れず、ふたたびもどって彼らに能力をさずけるために、その能力を天父から受けたもうた。同じ日にイエスは地上にもどって弟子たちの前に姿をあらわしたもうた。イエスは、天父のもとにのぼって能力を受けたもうたので、こんどは弟子たちがご自分のからだにさわるのをおゆるしになった。

トマスの弱さ

ヨハネ20章1－29節

- ①弟子たちといっしょにいなかった。(24節)
- ②「決して信じてない」と言った。(25節)

集会に参加すること、兄弟姉妹との交わり の大切さ

ヘブル10:25

ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。

集会に忠実であること

初文215、216

すべての者は、主のために、何かを語らなければならない。なぜならば、そうすることによって、彼らは恵まれるからである。集会をやめることはしないで、たびたび互いに語り会う人々について、覚えの書が書かれている。残りの民は、**小羊の血**と彼らの**あかしの言葉**によって**勝利すべき**である。ある人々は、小羊の血だけで勝利するものと思って、自分たちで特別の努力をしていない。神は、恵みのうちにわれわれに言葉の力をお与えになったことを、わたしは見た。神は、われわれに舌をお与えになった。・・・われわれは、われわれの口をもって神に栄光を帰し、真理と神の限りないあわれみをほめたたえ、**小羊の血によるわれわれのあかしの言葉**によって勝利しなければならない。

クリスチャンの交わりの重要性

キ道140

神に奉仕するにあたって、互いに力づけ励ますために、互いに交わる特権を軽視すれば必ず損失を招きます。神のみ言葉の真理はあざやかさを失い、その重要性を悟らなくなってきました。そして、私どもの心は、そのきよめの力に照されることも、覚醒されることもなく、霊的に衰えてしまいます。

ユダヤ歴1月16日（週の初めの日）

エルサレムの2階の広間にて

（マルコによると、この時大宣教命令が出された）

その後、イエスは十一弟子が食卓についているところに現れ、彼らの不信仰と、心のかたくななことをお責めになった。彼らは、よみがえられたイエスを見た人々の言うことを、信じなかったからである。

そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。—マルコ16:14, 15

ほかの弟子たちが、彼に「わたしたちは主にお目にかかった」と言うと、トマスは彼らに言った、「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、**決して信じない**」。 ヨハネ20:25

トマスの弱さ

ヨハネ20章1－29節

- ①弟子たちといっしょにいなかった。(24節)
- ②「決して信じない」と言った。(25節)

なぜトマスは「決して信じない」と断言したか？

希下345

イエスが初めて弟子たちに二階の広間で会われた時、トマスはいっしょにいなかった。トマスはほかの人たちのうわさを聞き、イエスがよみがえられたという十分な証拠を示されたが、憂うつと不信が彼の心を満たしていた。弟子たちがよみがえられた救い主のふしぎな出現について語るのを聞くと、彼はますます深い絶望に沈んだ。

なぜトマスは「決して信じない」と断言したか？

希下345（続き）

もしイエスが実際に死人の中からよみがえられたとしても、字義通りの地上の王国についても望みはあり得ないのだった。また、主が自分を除いてほかのすべての弟子たちにあらわれたもうたと考えることは、彼の**虚栄心**を傷つけた。彼は信じないことを**決心した**。そして、1週の間じゅう自分のみじめさを思いつづけた。それは、兄弟たちの望みと信仰とは対照的に一層暗くみえた。

なぜトマスは「決して信じない」と宣言したか？

希下345（続き）

その間彼は、「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」とくりかえし断言した(ヨハネ 20：25)。彼は、兄弟たちの目で見ようとも、彼らのあかしにもとづいた信仰を働かせようともしなかった。彼は熱烈に主を愛していたが、彼の心と思いはねたみと不信に占領されていた。

傷つきやすい誇り

キ実73

しばしば、次のような疑問が起こる。では、神のことばを信じると言っている人の、ことばにも、精神にも、品性にも改革が見られないのは、いったいどうしたことであろうか。自分がよく考えて計画したことに対する反対があつたりすると、がまんできずに、ついに短気を起こし、するどい激しいことばを口にするものが多いのはなぜであろうか。また、彼らの生活には、世俗の人が持っているのと同じ利己心、放縦、短気、はげしいことばがみられる。

傷つきやすい誇り

キ実73（続き）

彼らは、真理を全く知らないかのように、世人と同じ傷つきやすい誇り、同じ生来の傾向、同じ品性のゆがみをもっている。というのは、彼らが悔い改めていないからである。彼らは真理のパン種を持っていない。パン種は、まだその仕事を始める機会がないのである。彼らの先天的および後天的の悪への傾向が、パン種の改変力に屈服していないのである。彼らの生活は、キリストの恵みに欠けていることと、品性を改変するキリストの力を信じていないことをあらわしている。

大下292

柔和は、自尊心や誇りを満足させない。

初文214

キリストの名を唱え、彼が速やかに来られることを待望していると主張する人々の多くは、キリストのために苦しむことが何であるかを知らない。彼らの心は、恵みによって和らげられず、自己に死んでいないことが、しばしば、いろいろな点であらわれる。それと同時に、彼らは、試練に会っていると言っている。しかし、**彼らの試練の主な原因は、和らげられていない心であって、それが利己心を敏感にし、しばしば傷つくのである。・・・**

誇りに勝利するのでなければ
後の雨を受けることはない

初文150

すべての罪、**誇り**、利己心、世を愛する心、
すべての悪い言葉や行為に**勝利するのでな**
ければ、だれひとりとして、「慰め」にあずか
ることができないのを、わたしは見た。

信仰 vs 誇り

ユダヤ歴1月23日（週の初めの日） エルサレムの2階の広間にて

八日ののち、イエスの弟子たちはまた家の内におり、トマスも一緒にいた。戸はみな閉ざされていたが、イエスがはいってこられ、中に立って「安かれ」と言われた。ヨハネ20：26

自分の虚栄心が傷つけられても意志を働かす

希下345

幾人かの弟子たちは、いまあのなつかしい二階の広間を一時の住居とし、夜になるとトマス以外の全部がそこに集まった。ある晩、トマスはほかの弟子たちに**会おうと決心した**。彼は、信じていないにもかかわらず、あのよい知らせがほんとうであるようにとどうかすかな望みをいただいていた。

それからトマスに言われた、「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」。ヨハネ20:27



トマスはイエスに答えて言った、「わが主よ、わが神よ」。

ヨハネ20:28

人間にとって最も気高い行為

国下55

人間が、聖であわれみ深い神に対して罪を犯した時に、心から悔い改めて、涙と悲しみのうちに自分の誤りを告白することほど、人間にとって気高い行為はない。神はこの事を人間にお求めになる。神は悔いせずおれた心以下のものをお受けにならない。

あ上284

人間は、神の助けを受けるために、
まず自分の弱さ、足りなさを自覚し
なければならない。

国上279

イザヤは、ダマスコの門におけるタルソのサウロのように、神を眺めて、**自分自身の無価値なことを悟っただけではなかった**。彼のへりくだった心に、**完全で十分なゆるしの確証が与えられた**。**そして彼は、変化した人間として立ち上がった**。

希下348

トマスのとり扱いにおいて、イエスは弟子たちに1つの教訓をお与えになった。イエスの模範は、信仰が弱くて、疑いをはっきり示す人々をどのように扱わねばならないかを教えている。イエスはトマスをしかりつけて、おさえつけてしまったり、彼と議論したりなどなさらなかった。イエスは疑う者にご自身をお示しになった。

希下348（続き）

トマスは、不当にも自分の信仰の条件を規定したが、イエスは、その寛大な愛と思いやりによって、すべての障壁を打破された。不信は、議論によってはめったに征服されない。それはむしろ、自己を固く守り、新しいささえと口実を見いだす。しかしイエスが、十字架につけられた救い主として、その愛と憐れみのうちにあらわされる時、かつては固かった多くの口から、「わが主よ、わが神よ」とのトマスの告白が聞かれるであろう。

トマスが宣教前に経験したこと

①誇りに勝利した

②自分の罪深さを自覚した

ナアマンの
信仰 vs 誇り

王下 5 : 9 - 14

ナアマンの
信仰 vs 誇り

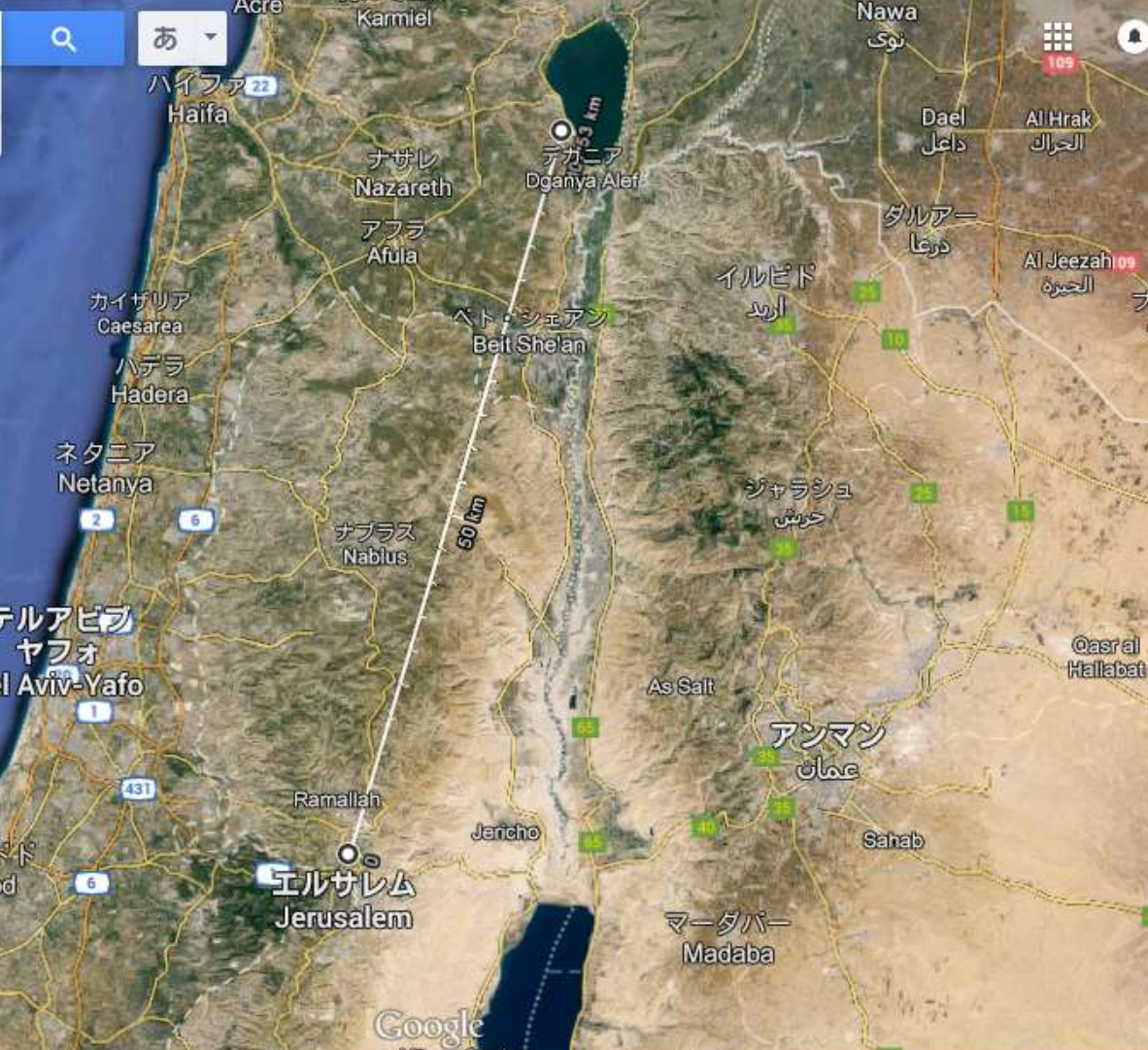
王下 5 : 9 - 14

マタイ26:32

しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。

マルコ16:7 今から弟子たちとペテロとの所へ行って、こう伝えなさい。イエスはあなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて、あなたがたに言われたとおり、そこでお会いできるであろう、と」。

検索欄
交通状況 ルート・乗換
合計距離: 107.53 km (66.81 マイル)



大宣教命令 (ガリラヤにて)



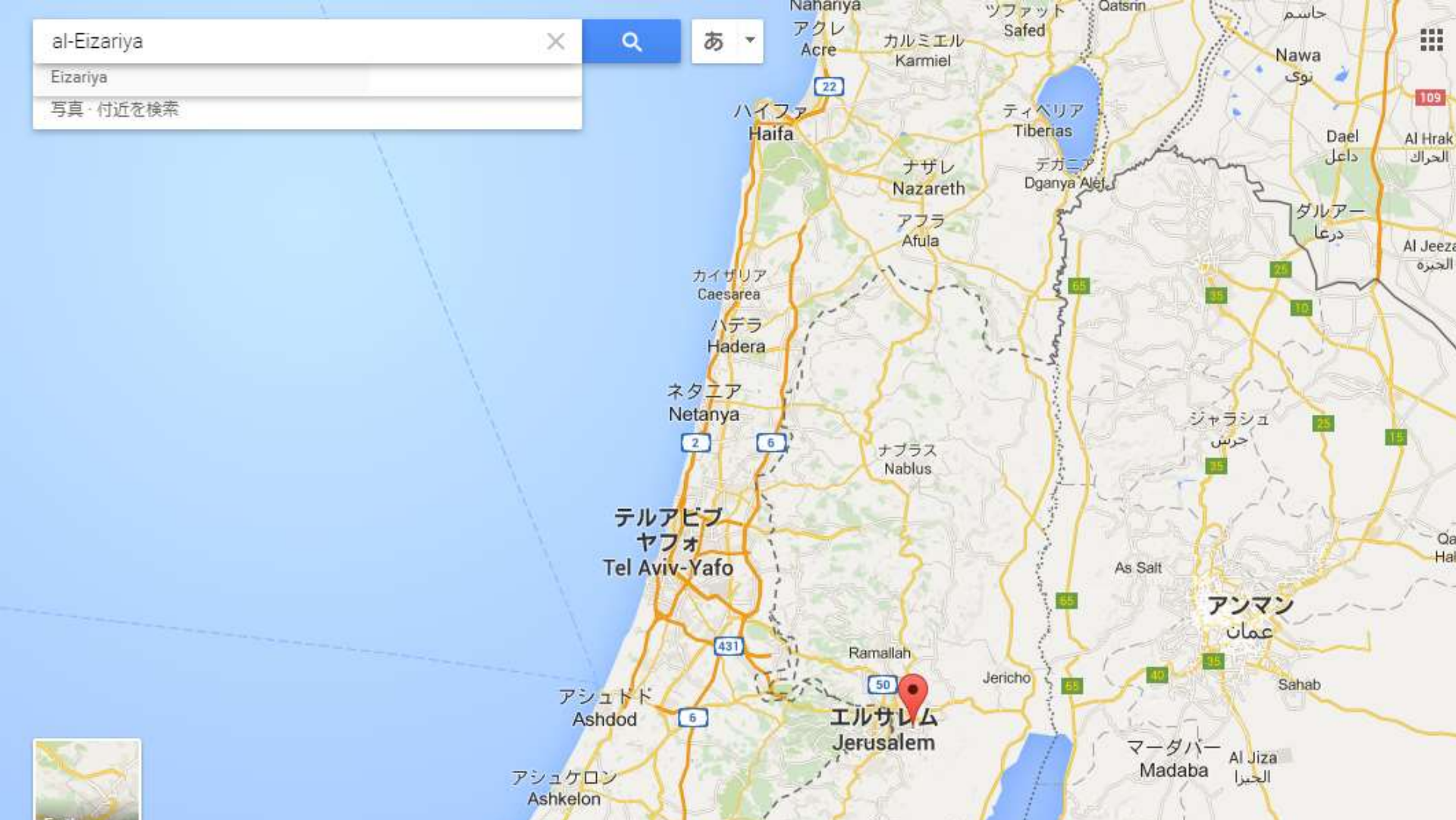
それゆえに、あなたがたは行って、**すべての国民**を(教え)、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいた**いっさいの**ことを守る**ように**教えよ。見よ、わたしは**世の終りまで**、いつもあなたがたと共にいるのである」。
マタイ28:18-20

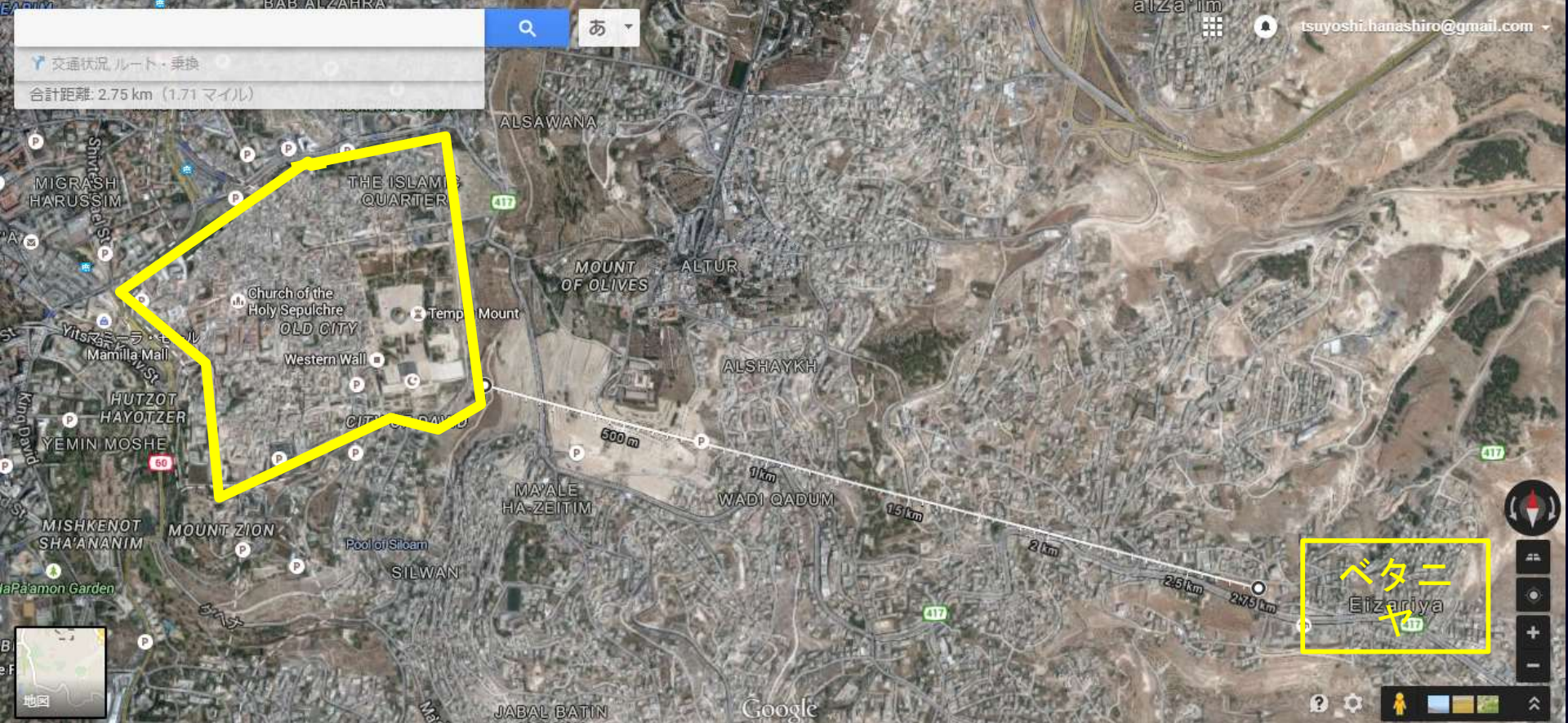
al-Eizariya

Eizariya

写真・付近を検索

あ





オリブ山にお着きになると、イエスは先頭に立って山の頂上を越え、ベタニヤの近所へ行かれた。そこから昇天された。

大宣教命令（昇天時、オリブ山、ベタニヤの近く）

彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の權威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。

使徒1:7-9

そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。—マルコ16:15

わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。—黙示録14:6, 7



「あなたは、小冊子を印刷し始め、それを人々に送らなければなりません。初めは、小さいものでよいでしょう。しかし、人々が読むにつれて、印刷する資金を送って来ます。それは、最初から成功します。それは、この小さい出発から**世界を取り巻く光の流れのようになる**ことが、わたしに示されました』
(ライフ・スケッチズ125ページ)。

ゼパニヤ

2:1 あなたがた、恥を知らぬ民よ、**共につどい、集まれ。**

2:2 すなわち、**(法令が出る前に、)**

もみがらのように追いやられる前に、
主の激しい怒りがまだあなたがたに臨まない前に、
主の憤りの日がまだあなたがたに来ない前に。

2:3 **すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ。** そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあろう。